

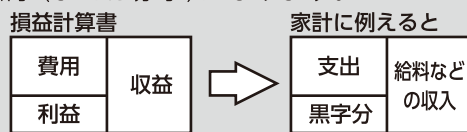
損益計算書(平成22年4月1日~平成23年3月31日) 消費税および地方消費税抜き(単位:円)

収 益	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
料 金 収 入	464,640,036	544,752,231	516,889,563
その他の営業収益	12,147,860	363,624	214,756,306
営 業 外 収 益	28,038,811	2,040,962	60,119,532
そ の 他	0	0	3,087,300
収益合計	504,826,707	547,156,817	794,852,701
費 用	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
人 件 費	59,653,651	28,491,403	45,967,193
物 件 費	106,964,509	70,075,749	278,129,664
動 力 費	21,045,390	24,284,237	145,679
受 水 費	123,739,230	0	0
支 払 利 息	22,198,949	147,882,826	133,138,133
減 価 償 却 費	137,196,053	222,220,735	296,684,400
そ の 他	4,582,840	588,160	10,194,344
費用合計	475,380,622	493,543,110	764,259,413
純利益	29,446,085	53,613,707	30,593,288

損益計算書って何?

1年間の営業活動の内訳を「収益」と「費用」に分け、その企業がいくらの「収益」を得て、いくらの「費用」が生じたのかを表したものです。また、その差し引きにより、その年の利益(または損失)がいくらあったのかを知ることができます。

分かりやすく家計に例えてみましょう。損益計算書は、家計を1年間やりくりした実績を表すものです。これにより1年間で黒字だったのか、赤字だったのかが分かります。「収益」は働いて得た給料などの収入や株の売却益などの臨時収入です。「費用」は家庭における支出です。食費や電話代、保険料、借金の利息などです。すべての収入から、すべての支出を差し引いたものが、黒字(または赤字)になります。



水道事業・工業用水道事業・公共下水道事業

平成22年度

決算の概要



問い合わせ 上下水道局 (業務課 ☎2193)

水道事業

給水人口の減少や景気の低迷及び節水意識の定着等が影響し、使用水量は平成6年度をピークとして年々減少傾向にあり、料金収入も同様に減少となってきています。このような中、歳出面においては、経費の削減等による経営の合理化に努めました。歳入面においては収益確保に努め、その結果、今年度も利益を計上することができました。

平成22年度の収益的収支は、収入総額5億482万6,707円、支出総額4億7,538万6,222円で、差し引き2,944万6,085円の純利益となりました。(消費税および地方消費税抜き)

工業用水道事業

第2期工業用水道事業の企業債償還利息および減価償却費が財政を大きく圧迫していましたが、平成20年度から追加の給水契約を締結し、財政面の改善が進んだことで収支が好転し、昨年度に引き続き今年度も利益を確保することができました。今

後は老朽化した施設の改築更新が必要となってくるため、計画的な施設改良を実施します。

平成22年度の収益的収支は、収入総額5億4,715万6,817円、支出総額4億9,354万3,110円で、差し引き5,361万3,707円の純利益となりました。(消費税および地方消費税抜き)

公共下水道事業

地方の小都市としては比較的早く下水道整備を行ってきたことで、現在は建設段階から維持管理段階へ移行しています。その半面で、施設の老朽化による改築更新費の増大や、料金収入が年々減少していることで、下水道経営は厳しい状況となっていますが、今年度から下水処理施設の包括的民間委託を導入するなど経費の削減や運営の効率化に努めた結果、今年度も利益を確保することができました。今後とも安定した事業経営を行うために、さらなる経営状況の改善に取り組んでいきます。

平成22年度の収益的収支は、収入総額7億9,485万2,701円、支出総額7億6,425万9,413円で、差し引き3,059万3,288

8円の純利益となりました。(消費税および地方消費税抜き)

決算書を販売しています

大竹市上下水道局の平成22年度決算書を500円で販売しています。また、市立図書館や市役所一階情報公開コーナーで閲覧できます。

損益計算書と貸借対照表

水道事業・工業用水道事業・公共下水道事業の会計は、地方公営企業法に基づき、複式簿記・発生主義を基本とする企業会計を行っています。複式簿記とは、単に現金の増減記録(単式簿記)だけでなく、経済取引によって生じた「結果」とその「原因」の両面により記録する手法です。これは、より効率的な運営をするために、業務の経営成績・財政状況を的確に把握し、業務の適正な評価をするために行っているものです。次のページでは、損益計算書と貸借対照表について説明します。

貸借対照表って何?

財産状況を示すもので、経営する上で必要な資金をどのようにして集めて運用しているかを明らかにします。大きく分けると、「資産」「負債」「資本」とに分かれます。「資産」が手持ちの財産内訳で、「負債」「資本」がその財産を取得したときの方法になります。このため「資産」と「負債」「資本」の金額合計は同じとなります。そのことからバランスシートとも呼ばれています。分かりやすく家計に例えてみると、貸借対照表は、1年間やりくりした結果の年度末時点での家計の状況を示すものとなります。「資産」は、家庭が持っている土地や家などの財産や預金や現金などになります。「負債」は家のローンなどの借金になります。「資本」は家を建てたときの元手や、その年度の利益や損失が含まれます。

貸借対照表

資産	負債
	資本

家計に例えると

家の財産	借金
	元手

貸借対照表(平成23年3月31日)

消費税および地方消費税抜き(単位:円)

資 産	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
固 定 資 産	4,341,219,616	10,386,437,603	11,324,599,523
有形固定資産	3,669,607,956	4,605,013,909	11,260,768,523
無形固定資産	46,660	5,781,423,694	63,831,000
投 資	671,565,000	0	0
流 動 資 産	993,151,221	456,355,889	427,099,218
現金預金	958,884,300	411,335,901	255,340,170
未 収 金	30,321,940	44,414,168	171,459,048
貯 蔵 品	3,519,414	305,820	0
その他流動資産	425,567	300,000	300,000
繰 延 勘 定	16,891,261	0	37,353,000
開 発 費	16,891,261	0	37,353,000
資産合計	5,351,262,098	10,842,793,492	11,789,051,741
負 債	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
固 定 負 債	7,740,643	1,305,065,000	296,261,100
企 業 債	0	633,500,000	195,986,100
他会計借入金	0	671,565,000	0
引 当 金	7,740,643	0	38,460,000
庁舎建設負担金	0	0	61,815,000
流 動 負 債	160,844,816	10,917,177	110,097,314
未 払 金	60,863,954	10,077,177	109,257,314
その他流動負債	99,980,862	840,000	840,000
負債計	168,585,459	1,315,982,177	406,358,414
資 本	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
資 本 金	1,684,559,054	8,320,476,076	3,713,806,607
自己資本金	952,360,211	2,862,914,037	0
借入資本金	732,198,843	5,457,562,039	3,713,806,607
剰 余 金	3,498,117,585	1,206,335,239	7,668,886,720
資本剰余金	3,031,932,818	1,803,863,874	7,589,321,967
利益剰余金	466,184,767	-	79,564,753
欠 損 金	-	597,528,635	-
資本計	5,182,676,639	9,526,811,315	11,382,693,327
負債・資本合計	5,351,262,098	10,842,793,492	11,789,051,741